

2015 年 8 月 21 日

口永良部島 2015 年 5 月 29 日噴火の火砕流

口永良部島 2015 年 5 月 29 日火砕流のうち、南西へ流れた火砕流は海岸線からさらに 1 km 程度海上を前進し、新岳火口から約 3 km 以上流走した。

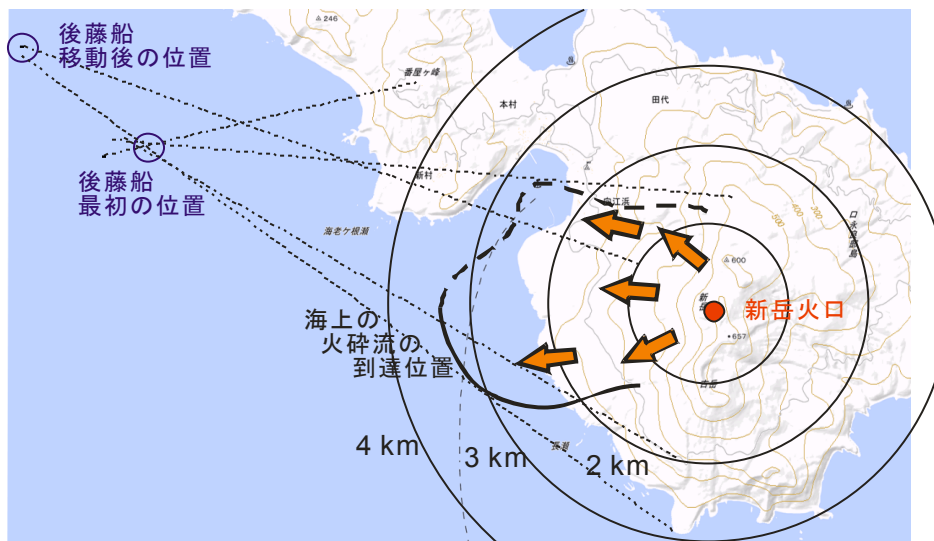


図 1

後藤利幸氏撮影の、番屋ヶ峰南西から撮影したビデオ映像から推測される火砕流の最大到達位置。西側斜面には主に 3 つの主要な火砕流の流れが認識できる。3 つの流れのうち、南西方向に流れた火砕流が最も遠くまで到達した。末端部のごく薄い噴煙は海上を少なくとも 1 km 程度は前進し、新岳火口から 3 km 以上流走したらしい。

海岸に到達するまでの所要時間は噴火開始から 90 秒以内である。火口から海岸線までは約 2 km なので、この間の平均流速は 22m/秒（時速 80km）となる。

解析に用いたビデオ映像は、後藤利幸氏が撮影したものを、中川正二郎氏経由で提供を受けたものである。



噴火開始から約 50 秒．矢印は平床鼻の位置．



噴火開始から約 2 分 30 秒後．ほぼ火砕流は停止状態．船から見て平床鼻が完全に見えなくなる位置まで火砕流先端が到達（黒矢印）．白矢印は，向江浜に流れた火砕流から立ち上る灰神楽．